

2. 他院管理症例・緊急症例への対応

植田 隆介 近畿大学医学部奈良病院 ME 部

3. 撮像フローにおける放射線科の役割

西山 大輔 大阪急性期・総合医療センター画像診断科

4. MRI 撮像における医師の役割

石末 成哉 北里大学医学部循環器内科学

MRI は CT に比べて骨や軟部組織の病変に優れた検出能力を有している。しかし、2012 年に条件付き MRI 対応デバイスが認可されるまで心臓デバイス植込み症例の MRI 撮像は禁忌とされていた。心臓デバイス植込み症例は、その 50~75% が生涯に MRI 検査を必要とするとされ (Kalin et al. 2005)、これらの患者には大きな福音となった。その一方で、撮像には多職種が巻き込まれ、大変な手間を要するだけでなく様々なトラブルも報告されている。本セッションでは、循環器医、放射線科医、放射線技師、臨床工学技士の様々な視点から 7 年間に集積された MRI 撮像にまつわる経験と解決策について討論を行い、より安全で簡便な MRI 撮像法を共有したい。

第 1 会場 15:10~16:40

シンポジウム7

新しいデバイスの展望

座長 池主 雅臣 新潟大学医学部保健学科

高橋 尚彦 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

演者

1. 特発心室細動症候群患者に対する S-ICD (皮下 ICD) と TV-ICD (経静脈 ICD)

篠原 徹二 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

2. 現状から考えるリードレスペースメーカーの未来

高野 誠 聖マリアンナ医科大学病院循環器内科

3. His 束ペーシングの現状と展望

保坂 幸男 新潟市民病院循環器内科

4. WCD の現状と今後の展望—新しい遠隔モニタリング機能—

近藤 祐介 千葉大学大学院医学研究院不整脈先端治療学

植込み型デバイスの進歩はめざましく、この数年、新たな機器が次々に医療現場に投入されてきた。このシンポジウムで取り上げる 4 つのテクノロジー (皮下植込み型除細動器: S-ICD, リードレスペースメーカー, His 束ペーシング, 着用型自動除細動器: WCD) は、いずれも従来の医療機器では対応できなかった Unmet Medical Needs を満たすもので患者に大きなメリットをもたらす。一方で、適応や手技を誤ると逆に患者に大きなデメリットを与えてしまう。実際に手技を施行しはじめて気付くピットフォールも少なくない。今回、新進気鋭の若手シンポジスト 4 名に自らの経験を踏まえ発表していただく。新しいデバイスの展望を幅広くディスカッションできる場になれば幸いである。